

1 本園の教育目標

- ・ よくあそび、よくまなび、豊かな心を育てる
- ・ 幼児と父母の学校

1 本年度重点的に取り組む目標

一人一人の園児の個性を大切にし、その個性を活かした質の高い教育の実践を目指す。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	園児の個性を活かす為に園児の個性を職員同士で共有する。	A	園児数の減少に伴い、教諭同士でできている部分が多く、十分に活かすことができた。
2	質の高い教育の実践	B	5年目を迎えた月1回の臨床心理士の介入により、保育環境が整えられ、保護者とのマンツーマンの時間も増加した。公認心理師の訪問アドバイスも定着し、教諭・保護者連携をとりながら有意義な時間を共有できている。年々増える保護者の利用の一方で、公認心理師への委託報酬経費の負担が大きいが、より質の高いかかわり方や保育の展開など考えた時に、何とか継続していく方向ではいる。
3	園生活の中で園児が様々な事柄に興味を示すように触れ、体験させる。	B	ミニ農園でのすいか作り等で、触れたり、体験させることを多く取り入れた。リズムダンスも年々充実した内容にレベルアップしている。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4 総合的な評価

評価	理由
B	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、質の高い教育の実践をすることができたと感じた。

5 今後取り組む課題

	課題	取り組み方法
1	個性を活かすプログラム	それぞれの園児の個性を生かすことができるような保育時間におけるプログラムの作成をよりきめ細かくしていく。
2	職員同士の勉強会	園児の個性を共有するだけでなく、どのように伸ばす事ができるかの勉強会を毎月実施。
3	保護者や小学校との連携	保護者からの意見、小学校からの意見を取り入れ「目指す姿」に向けての園としての役割を強化する。

6 学校関係者評価委員会の評価

園児も減少し、園としても厳しい状況に置かれているが、現在通園する園児に対して細かく質の高い教育を目指し保護者に理解と共感してもらえる園として期待も大きい。新年度から新制度園に移行すること、運営面では変化が生じることがある。安全安心は大前提とし、そのうえで可能な限り充実した保育活動を目指していきます。